

InBody270s

結果用紙の見方

測定前の注意事項



警告

- ・心臓ペースメーカーのような植え込み型医療機器、または生体情報モニタのような生命維持に必要な医療機器を装着されている人を測定しないでください。測定中に微弱な電流が体内に流れるため、装置の故障、生命の危機に繋がる恐れがあります。
- ・装置の近くで遊んだり、体重測定部の上で跳ねたりしないでください。怪我をする恐れがあります。
- ・生体電気インピーダンス(BIA 分析)法は微細な電流を利用するので人体に害はありません。しかし、妊婦の方を測定する場合、担当医師または、専門家と相談して測定を行ってください。
- ・幼児や一人で立って測定できない方は、体重測定の後には支えを受けた状態で測定することができます。
- ・伝染性の疾病の方、若しくは手の平や足の裏に怪我のある方は装置に接触したり、測定したりしないでください。



注意

- ・5分くらい起立した後から測定してください。長時間横になっていたり、座っていたりした状態から測定すると、体水分が下半身に移動するため、測定結果が不正確になる恐れがあります。
- ・腕と体幹、両太ももが接しないように測定してください。電流の経路が変わるため、測定結果が不正確になる恐れがあります。
- ・空腹状態で測定してください。飲食物の摂取は体重や体成分に影響します。また、消化器官の動きが体幹インピーダンスの測定に誤差をもたらす恐れがあるので、食後は2時間くらい空けてから測定してください。
- ・トイレを済ませてから測定してください。体内の残余物が体重や体成分に影響するため、測定結果が不正確になる恐れがあります。
- ・運動やお風呂・シャワーの前に測定してください。汗を掻いたり、血流が変化したりすると、体成分が一時的に変化する恐れがあります。
- ・出来るだけ午前中に測定してください。午後になると体水分が下半身に移動する傾向があるため、測定結果に影響する恐れがあります。
- ・常温(20~25℃)で測定してください。人体は常温で安定した状態を維持し、寒かったり、またはあまりにも暑かったりした状態では、体成分が一時的に変化する恐れがあります。
- ・測定の時に、体に金属のような電流が流れる物体を見に付けないようにしてください。
- ・手の平や足の裏が乾燥していたり、角質が多かったりした場合、測定エラーが出る恐れがあります。電解ティッシュで手の平や足の裏を十分に拭いてから測定してください。
- ・身長と着衣量を正確に入力してください。身長と体重は体成分の算出に影響するため、誤った数値を入力すると測定結果が不正確になる恐れがあります。
- ・測定を定期的 to 実施して身体の変化を把握したい場合は、測定条件を同一に守ってください。測定結果は常に同じ条件(同じ姿勢、空腹状態、運動前など)で測定して比較する必要があります。

InBody

InBody270S に問題が生じたり、臨床に関する質問が生じたりした場合、下記の連絡先までお問い合わせください。

株式会社インボディ・ジャパン

〒136-0071 東京都江東区亀戸 1-28-6 タニビル

Tel: 03-5875-5780 Fax: 03-5875-5781

Website: www.inbody.co.jp E-mail: inbody@inbody.co.jp

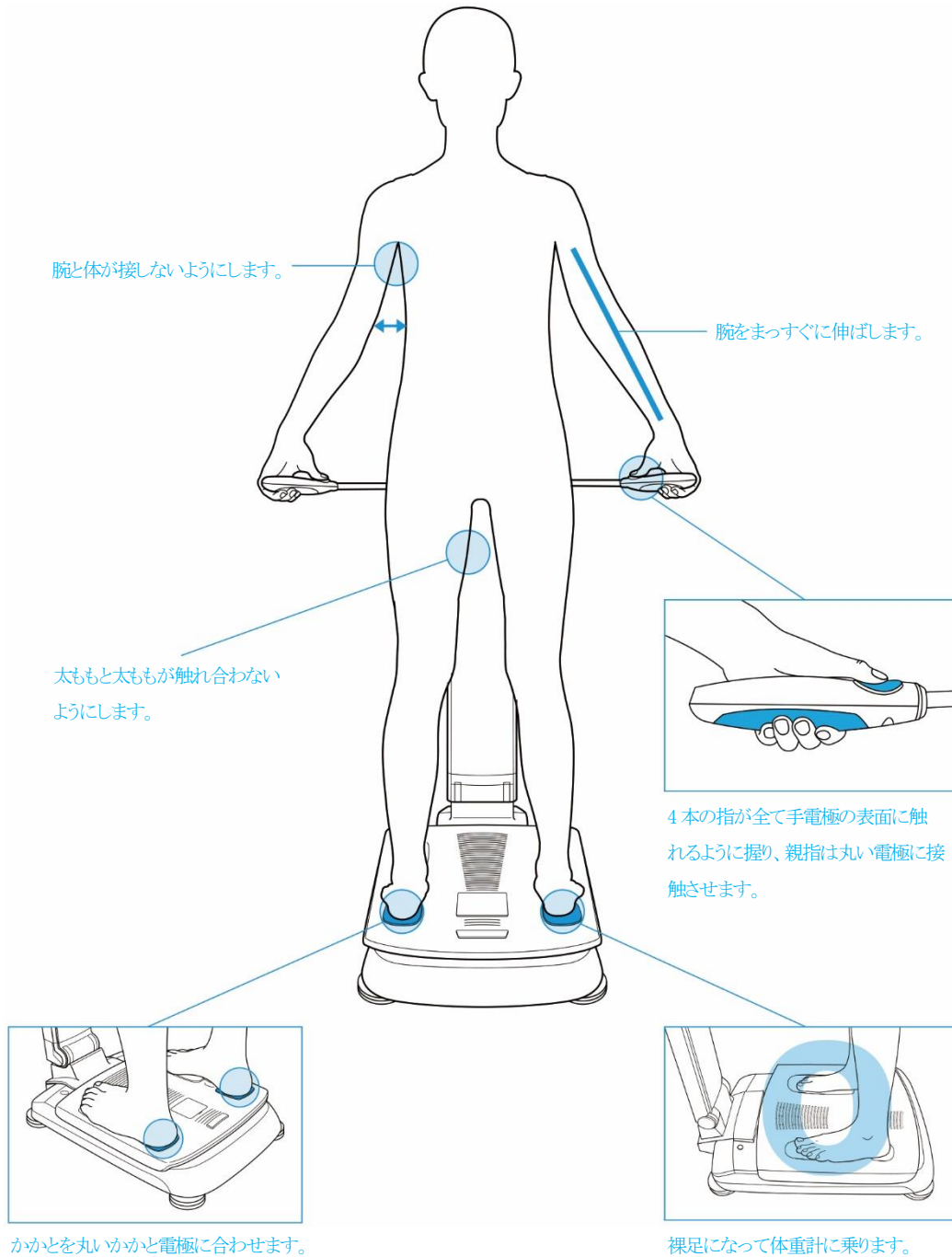
本書の校正には注意を払っておりますが、誤字・脱字がある可能性があり、予告なしに変更することがあります。(株)インボディ・ジャパンは本書に述べられた必要条件を満たさないことによってもたらされた損害については一切の責任を負いかねます。

InBody に関する更なる機能と活用方法などの詳細な情報は、(株)インボディ・ジャパンのホームページ(<https://www.inbody.co.jp>)にて閲覧できます。なお、製品の仕様は性能改善のために予告なしに変更されることがあります。

測定姿勢

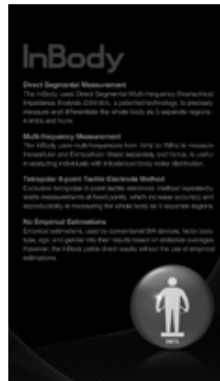
正確な測定結果のためには、測定時に正しい姿勢を維持する必要があります。

- * 測定を進めるには、身体との電氣的接触が重要です。
- * 手や足が乾燥している方は、電解ティッシュで手の平や足の裏を十分に拭いてから測定してください。
- * 測定中は動いたり、笑ったり、喋ったりしないでください。



環境設定

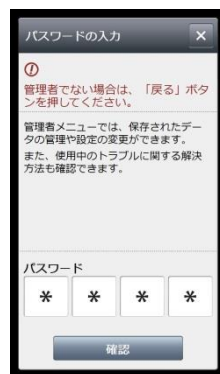
- InBody270S の電源を入れると起動を開始します。起動の間に自己点検、体重零点設定、内部回路調節を実施します。
* 起動中は体重測定部に乗ったり、物を乗せたりしないでください。



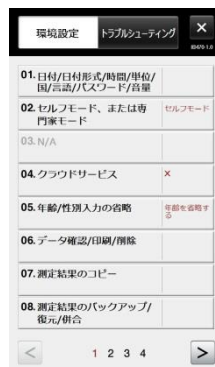
- 初期画面で管理者メニューボタンを押してください。



- パスワード(初期設定: 0000)を入力して管理者メニューに入ってください。



- 管理者メニューに入ると「環境設定」と、「トラブルシューティング」が確認できます。



環境設定



トラブルシューティング

環境設定の詳細

環境設定		トランシュューティング	×
01. 日付/日付形式/時間/単位/国/言語/パスワード/音量			
02. セルフモード、または専門家モード		セルフモード	
03. N/A			
04. クラウドサービス		X	
05. 年齢/性別入力省略		年齢を省略する	
06. データ確認/印刷/削除			
07. 測定結果のコピー			
08. 測定結果のバックアップ/復元/併合			

01. 日付/日付形式/時間/単位/国/言語/パスワード/音量
02. セルフモード、または専門家モード
03. N/A(使用しません)
04. クラウドサービス - LookinBody Web
05. 年齢/性別入力省略
06. データ確認/印刷/削除
07. 測定結果のコピー
08. 測定結果のバックアップ/復元/併合

環境設定		トランシュューティング	×
09. プリンター接続		PCL	
10. 結果用紙の種類			
11. 自動印刷及び自動印刷枚数		1	
12. 専用結果用紙、またはA4用紙		A4用紙	
13. 結果用紙の項目/説明			
14. ログ入力			
15. 印刷位置の調節			
16. ネットワーク接続		X	

09. プリンター接続
10. 結果用紙の種類 - 体成分結果・小児用結果・サーマル結果
11. 自動印刷及び自動印刷枚数
12. 専用結果用紙、または A4 用紙
13. 結果用紙の項目/説明
14. ログ入力 - イメージ・テキスト
15. 印刷位置の調節
16. ネットワーク接続 - LAN・Wi-Fi

環境設定		トランシュューティング	×
17. Bluetooth接続		X	
18. 体重入力、または体重測定		体重測定モード	
19. 着衣量(風袋引き)設定		1.0kg	
20. 標準範囲			
21. N/A			
22. 小児成長曲線		日本	
23. タッチスクリーン調節			
24. お問い合わせ先		03-567...	

17. Bluetooth 接続 - 身長計・LookinBody
18. 体重入力、または体重測定
19. 着衣量(風袋引き)設定
20. 標準範囲 - BMI・体脂肪率・ウエストヒップ比
21. N/A(使用しません)
22. 小児成長曲線 - 日本・WHO
23. タッチスクリーン調節
24. お問い合わせ先

環境設定		トランシュューティング	×
25. 画面ロック		X	
26. シリアルポート接続		LookinBody	
27. その他機能			

25. 画面ロック
26. シリアルポート接続 - LookinBody120・身長計・血圧計・サーマルプリンター・SD400
27. その他機能

測定方法

1. 待機画面で裸足になって体重計に乗ります。

* 管理者メニューの環境設定の「02. セルフモード、または専門家モード」の設定によって画面構成が変わります。

専門家モード: 測定時に管理者が一緒にいる場合を想定して画面を構成しています。

セルフモード: 一人でも簡単に測定できる画面に構成しています。



2. 体重測定を始めます。測定中は手電極に触れないで測定してください。



3. 測定者の個人情報を入力します。

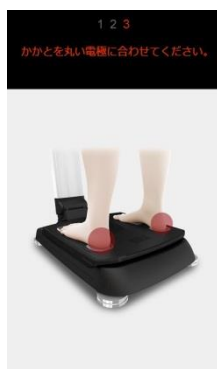
* セルフモードの場合、身長のみを入力します。

専門家モード

セルフモード

4. 測定姿勢を取ります。

* 正しい姿勢は、3 ページの「測定姿勢」をご確認ください。



5. 測定が始まります。

* セルフモードの場合、画面に InBody の健康ガイドが表示されます。

* 測定時間は30秒です。



専門家モード



セルフモード

6. 測定が完了したら、結果画面が表示されます。



専門家モード



セルフモード

ID	身長	年齢	性別	測定日時
Jane Doe	156.9cm	51	女性	2024.05.04. 09:46

1 体成分分析 Body Composition Analysis

体を構成している	体水分量 (L)	27.5 (26.3 ~ 32.1)
筋肉を作る	タンパク質量 (kg)	7.2 (7.0 ~ 8.6)
骨を丈夫にする	ミネラル量 (kg)	2.63 (2.44 ~ 2.98)
余ったエネルギーを保存する	体脂肪量 (kg)	21.8 (10.3 ~ 16.5)
体水分・タンパク質・ミネラル・体脂肪の合計	体重 (kg)	59.1 (43.9 ~ 59.5)

※水量 -0.5kg

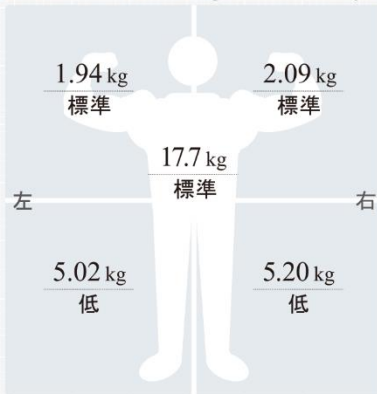
2 筋肉-脂肪 Soft Lean-Fat Analysis

	低	標準	高	
体重 (kg)	55 70 85 100 115 130 145 160 175 190 205 %	59.1		
筋肉量 (kg)	70 80 90 100 110 120 130 140 150 160 170 %	35.1		
体脂肪量 (kg)	40 60 80 100 160 220 280 340 400 460 520 %	21.8		

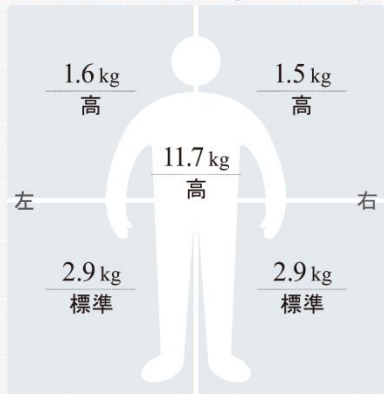
3 肥満指標 Obesity Index Analysis

	低	標準	高	
BMI (kg/m ²)	10.0 15.0 18.5 21.0 25.0 30.0 35.0 40.0 45.0 50.0 55.0	24.0		
体脂肪率 (%)	8.0 13.0 18.0 23.0 28.0 33.0 38.0 43.0 48.0 53.0 58.0	36.9		

4 部位別筋肉量 Segmental Lean Analysis



5 部位別体脂肪量 Segmental Fat Analysis



6 体成分履歴 Body Composition History

	23.10.10 09:15	23.10.30 09:40	23.11.02 09:35	23.12.15 11:01	24.01.12 08:33	24.02.10 15:50	24.03.15 08:35	24.05.04 09:46
体重 (kg)	65.3	63.9	62.4	61.8	62.3	60.9	60.5	59.1
筋肉量 (kg)	35.6	35.5	35.2	35.2	35.3	35.2	35.3	35.1
体脂肪率 (%)	41.3	40.7	39.2	39.0	39.4	38.6	37.8	36.9

最近 全体

7 InBody点数 InBody Score

68/100点

体成分の総合点数です。
筋肉量がとても多いと100点を超えることもあります。

8 体重調節 Weight Control

適正体重	51.7 kg
体重調節	- 7.4 kg
脂肪調節	- 9.9 kg
筋肉調節	+ 2.5 kg

9 筋肉均衡 Lean Balance

上半身均衡	<input checked="" type="checkbox"/> 均衡 <input type="checkbox"/> やや不均衡 <input type="checkbox"/> 不均衡
下半身均衡	<input type="checkbox"/> 均衡 <input checked="" type="checkbox"/> やや不均衡 <input type="checkbox"/> 不均衡
上下均衡	<input type="checkbox"/> 均衡 <input checked="" type="checkbox"/> やや不均衡 <input type="checkbox"/> 不均衡

10 栄養評価 Nutrition Evaluation

タンパク質量	<input checked="" type="checkbox"/> 良好 <input type="checkbox"/> 不足
ミネラル量	<input checked="" type="checkbox"/> 良好 <input type="checkbox"/> 不足
体脂肪量	<input type="checkbox"/> 良好 <input type="checkbox"/> 不足 <input checked="" type="checkbox"/> 過多

11 肥満評価 Obesity Evaluation

BMI	<input checked="" type="checkbox"/> 標準 <input type="checkbox"/> 低体重 <input type="checkbox"/> 過体重
体脂肪率	<input type="checkbox"/> 標準 <input type="checkbox"/> 軽度肥満 <input checked="" type="checkbox"/> 肥満

12 ウエストヒップ比 Waist-Hip Ratio

0.91

13 内臓脂肪レベル Visceral Fat Level

12

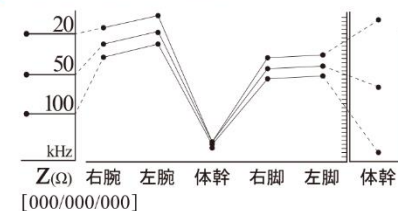
14 研究項目 Research Parameters

骨格筋量	19.6 kg (19.5 ~ 23.9)
除脂肪量	37.3 kg (35.8 ~ 43.7)
基礎代謝量	1176 kcal
腹囲	91 cm
除脂肪指数(FFMI)	15.2 kg/m ²
体脂肪指数(FMI)	8.9 kg/m ²
骨格筋指数(SMI)	5.8 kg/m ²
骨格筋率(SMM/WT)	33.2 %

15 位相角 Whole Body Phase Angle

φ (°) 50 kHz | 4.3°

16 インピーダンス Impedance



結果用紙の項目

① 体成分分析

体の4大構成成分(体水分・タンパク質・ミネラル・体脂肪)の現状を表示します。この表を見ることで、体内成分の均衡が一目で分かります。

② 筋肉・脂肪

筋肉量と体脂肪量が体重に対して適切であるかを棒グラフで表示します。身長と性別から求める標準体重を基に筋肉量・体脂肪量の標準値を定めており、グラフの形から体型を視覚化できます。



③ 肥満指標

BMIは標準でも体脂肪率が高い場合は隠れ肥満と言えます。BMIだけでは肥満を見つけられません。InBodyは肥満判定の指標として、BMIと体脂肪率を提供するため、総合的に肥満の評価ができます。

④ 部位別筋肉量

筋肉量を四肢と体幹の部位別に測定し、現在の体重に対する各筋肉量の発達程度を評価します。

⑤ 部位別体脂肪量

体脂肪量を四肢と体幹の部位別に測定し、標準体重に対する各体脂肪量の多さを評価します。

⑥ 体成分履歴

測定ID毎に直近データを8件まで表示します。体重・筋肉量・体脂肪率が確認できます。

⑦ InBody点数

体成分の状態を分かりやすく点数化して表示しています。80点を基準に筋肉量と体脂肪量の標準値に対する適切さから算出されます。

⑧ 体重調節

体成分を考慮した適正体重と調節すべき筋肉量や体脂肪量を表示します。この数値を目標にすることで健康的で体成分の均衡が取れた体重管理が可能になります。

⑨ 筋肉均衡

部位別筋肉量に基づいて身体の均衡状態を評価します。

⑩ 栄養評価

タンパク質量、ミネラル量、体脂肪量が適切であるかどうかを評価します。

⑪ 肥満評価

BMIと体脂肪率に基づいて肥満の程度を評価します。

⑫ ウエストヒップ比

臀囲に対する腹囲の比の推定値です。

⑬ 内臓脂肪レベル

内臓脂肪をレベルとして表し、10を超えると注意が必要です。

⑭ 研究項目

栄養評価・生活習慣指導・研究などでよく活用される項目です。例えば、筋肉量の中で随意筋に該当する骨格筋量、摂取エネルギーの算出に参考となる基礎代謝量、栄養評価の指標となる骨格筋指数(SMI)などを提供します。

⑮ 位相角

位相角は50kHzの交流電流が細胞膜を通過する際に計測される抵抗(リアクタンス)を角度で表した項目で、体細胞量や細胞膜の構造的完成度に比例します。そのため、生命予後や重症度の指標として広く活用されています。

⑯ インピーダンス

各部位・周波数別のインピーダンス(Z)情報をエラーコードと一緒に表示します。インピーダンスは交流電流が人体に沿って流れる際に発生する抵抗であり、全ての体成分結果の基になります。



QRコードを読み取ると、製品紹介や結果用紙の見方をYouTubeで見ることができます。

① 体成分分析 (Body Composition Analysis)

体重を構成している体成分の測定結果を提供します。InBody270Sは4区画モデルに基づいて体成分を分析します。4区画モデルというのは、人体の構成成分を体水分・タンパク質・ミネラル・体脂肪の4つに区分する理論です。

体成分分析 Body Composition Analysis

体を構成している	体水分量 (L)	27.5 (26.3 ~ 32.1)
筋肉を作る	タンパク質量 (kg)	7.2 (7.0 ~ 8.6)
骨を丈夫にする	ミネラル量 (kg)	2.63 (2.44 ~ 2.98)
余ったエネルギーを保存する	体脂肪量 (kg)	21.8 (10.3 ~ 16.5)
体水分・タンパク質・ミネラル・体脂肪の合計	体重 (kg)	59.1 (43.9 ~ 59.5)

着衣量: -0.5kg

体水分量 (Total Body Water)

健康な人は体重の約 50~70%が水分です。体水分は摂取した栄養素を体の細胞に届け、老廃物を体外に排出する運搬の役割をしています。

タンパク質量 (Protein)

体水分と共に筋肉の主な構成成分です。タンパク質量が足りないというのは、細胞の栄養状態が良くないことを意味します。

ミネラル量 (Minerals)

ミネラルの約 80%は骨にあり、体を支える役目をします。不足すると骨粗鬆症や骨折の危険性が高まります。ミネラル量は除脂肪量と密接な相関関係にあります。

体脂肪量 (Body Fat Mass)

食事で摂った栄養分は消化吸収され活動のエネルギーとして使われます。使いきれなかったエネルギーは脂肪細胞に蓄積され、肥満の原因となります。

② 筋肉・脂肪 (Soft Lean-Fat Analysis)

筋肉と体脂肪の均衡が分かります。数値は各項目の測定値を示します。棒グラフは各項目の理想値に対する比率を意味します。つまり、表にある 100%は測定者の理想体重(標準体重)を基準に算定した理想値を意味します。

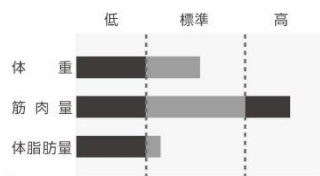
筋肉・脂肪 Soft Lean-Fat Analysis

	低	標準	高
体重 (kg)	55 70 85 100 115 130 145 160 175 190 205 %	59.1	
筋肉量 (kg)	70 80 90 100 110 120 130 140 150 160 170 %	35.1	
体脂肪量 (kg)	40 60 80 100 160 220 280 340 400 460 520 %	21.8	

また、棒グラフの先端を線で結んだ時の形によって、標準型・強靱型・隠れ肥満型等の身体のタイプが分かり、体重管理のために運動/食事管理をする際は、筋肉と体脂肪に変化が現れるため、そのモニタリングが正しくできます。

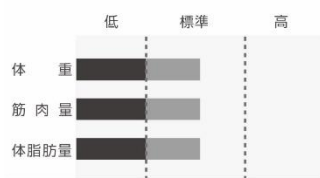


なお、この項目が示している筋肉量は骨格筋量ではありません。人体を組成・化学的な面からみて、体重から体脂肪量や骨ミネラル量を除いた部分を Soft Lean Mass と言い、これに最も近い言葉として筋肉量と表現しています。InBody の筋肉量は、DXA が提示する筋肉量(Lean Soft Tissue Mass;除脂肪軟組織量)と定義が一致します。



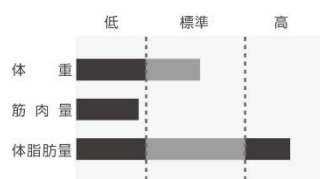
① 標準体重・強靱型

体重と体脂肪量は標準で筋肉量の多い、運動選手でみられる理想的な体型です。この状態を維持することが最善と言えますが、体脂肪もエネルギーを保存する重要な体成分の1つなので、過度に少ないと体によくありません。



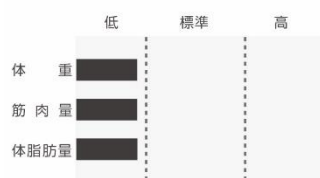
② 標準体重・健康型

体重・筋肉量・体脂肪量の全てが標準で、体成分の均衡が綺麗に取れている状態です。今でも十分に健康的な体型ではありますが、筋肉量を増やすことで、より理想的な体型になります。



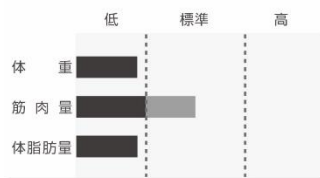
③ 標準体重・肥満型

体重は標準ですが、筋肉量と体脂肪量の均衡が取れていない、隠れ肥満と言われる体型です。運動不足の現代人に多くみられる体型で、見た目は普通ですが、筋肉量と体脂肪量の改善が必要です。



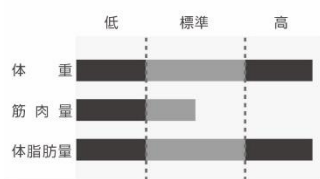
④ 低体重・虚弱型

体重・筋肉量・体脂肪量の全てが少ない虚弱な体型です。適切な食事で身体活動に必要なエネルギーが十分に供給されていない恐れがあります。何よりも先に体重を増やす必要があります。



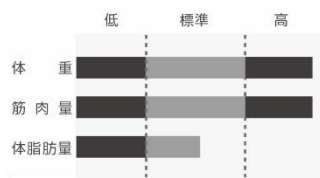
⑤ 低体重・強靱型

低体重でありながらも筋量は標準に属しているため、体成分の均衡が取れています。体脂肪量が少ないと、様々な生活習慣病の発症率が下がりますが、過度に少ない場合はホルモン異常などの問題が出る恐れもあるので、注意が必要です。



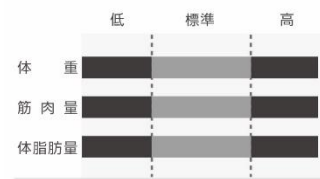
⑥ 過体重・虚弱型

筋肉量は標準に入っていますが、体脂肪量の割合が圧倒的に高いため、結果的に現在の筋肉量では体を支え切れない、虚弱に該当する体型です。筋肉量を維持しながら、体脂肪量(体重)を減らす必要があります。



⑦ 過体重・強靱型

ボディビルダーにみられる体型です。体重が重いのは筋肉量が多いためで、肥満が原因ではありません。つまり、今の体重が適正体重で、過体重を意識して減量する必要はありません。



⑧ 過体重・肥満型

筋肉量が多いからといって安心してはいけません。体脂肪量の増加によって体重が増えると、体重を支えるために自然と筋肉量も増加します。体脂肪率が高い状態であるので、筋肉量を維持しながら体脂肪量を減らす必要があります。

③ 肥満指標 (Obesity Index Analysis)

測定者の体型と肥満の有無がわかります。体重と身長を利用した BMI だけでは、肥満度の判定に限界があるため、BMI と体脂肪率の両方から体型や肥満度を把握することができます。

肥満指標 Obesity Index Analysis

	低	標準	高
BMI (kg/m ²) Body Mass Index	10.0 15.0 18.5 21.0 25.0 30.0 35.0 40.0 45.0 50.0 55.0	24.0	
体脂肪率 (%) Percent Body Fat	8.0 13.0 18.0 23.0 28.0 33.0 38.0 43.0 48.0 53.0 58.0	36.9	

標準範囲・標準値の決め方

BMI (Body Mass Index)

WHO の定めた基準を根拠にしており、標準範囲は男性 18.5～25.0(標準値 22.0)、女性 18.5～25.0(標準値 21.0)です。

* 環境設定「20. 標準範囲」で、標準範囲を変更することができます。

体脂肪率 (Percent Body Fat)

体成分に対する各種論文を根拠にしており、標準範囲は男性 10～20%(標準値 15%)、女性 18～28%(標準値 23%)です。

* 環境設定「20. 標準範囲」で、標準範囲を変更することができます。

結果の見方

BMI と体脂肪率の棒グラフの長さを比較し、測定者の体型を確認することができます。

例) 低筋肉型肥満(やせ型肥満)体型の女性

	低	標準	高
BMI (kg/m ²) Body Mass Index	10.0 15.0 18.5 21.0 25.0 30.0 35.0 40.0 45.0 50.0 55.0	21.0	
体脂肪率 (%) Percent Body Fat	8.0 13.0 18.0 23.0 28.0 33.0 38.0 43.0 48.0 53.0 58.0	33.0	

BMI は 21.0kg/m²の標準で見た目としては普通の体型ですが、体脂肪率は 33%で標準より高いため実際は肥満体型です。

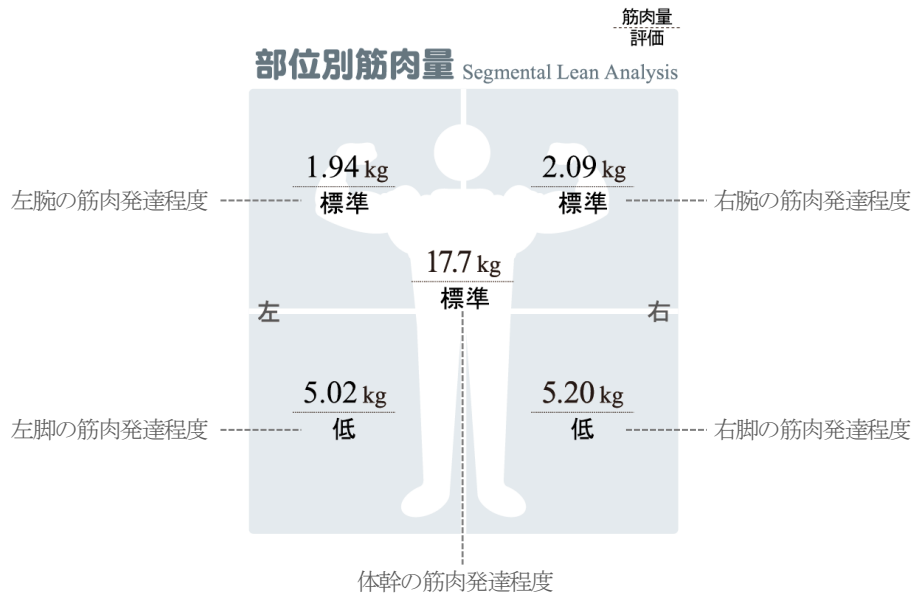
例) 筋肉型体型の男性

	低	標準	高
BMI (kg/m ²) Body Mass Index	10.0 15.0 18.5 22.0 25.0 30.0 35.0 40.0 45.0 50.0 55.0	30.0	
体脂肪率 (%) Percent Body Fat	0.0 5.0 10.0 15.0 20.0 25.0 30.0 35.0 40.0 45.0 50.0	15.0	

BMI は 30.0kg/m²の標準以上で見た目の体格は大きいですが、体脂肪率は 15%の標準であるため実際は筋肉質な体型です。

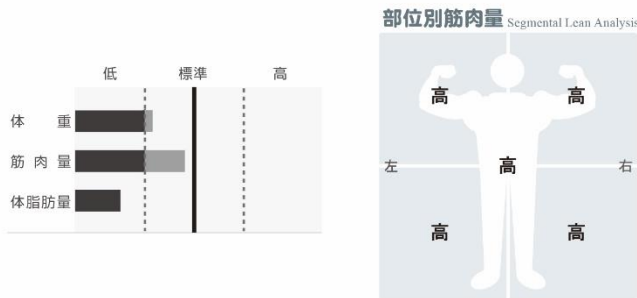
④ 部位別筋肉量 (Segmental Lean Analysis)

部位別(右腕・左腕・体幹・右脚・左脚)の発達程度を確認することができます。現在の体重に対して筋肉量が十分なのかを判断し、筋肉が多いほど健康な体であると言えます。また、上下半身の筋肉の発達程度や左右の均衡が分かるので、運動療法の判断基準になります。

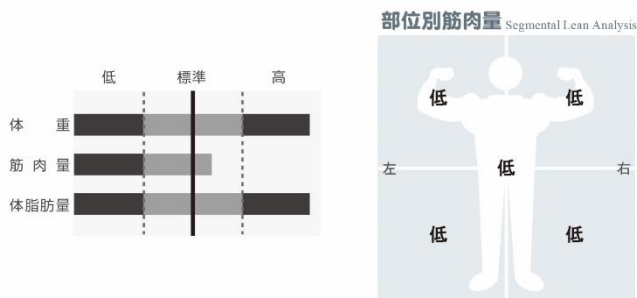


部位別筋肉量は筋肉・脂肪項目の筋肉量と評価基準が異なるため、両方の評価が必ず一致するわけではありません。つまり、測定者が標準体重の人より筋肉量が多くても現在の体重を支えきれない量であれば、部位別筋肉量では「低」と評価されます。これとは逆に測定者が標準体重の人より筋肉量が少なくても、現在の体重を支えきれない量であれば部位別筋肉量では「標準」、または「高」と評価されます。

例) 筋肉量が標準より少ないですが、現在の体重を支え切れている状態を表しています。(主にやせ体型)



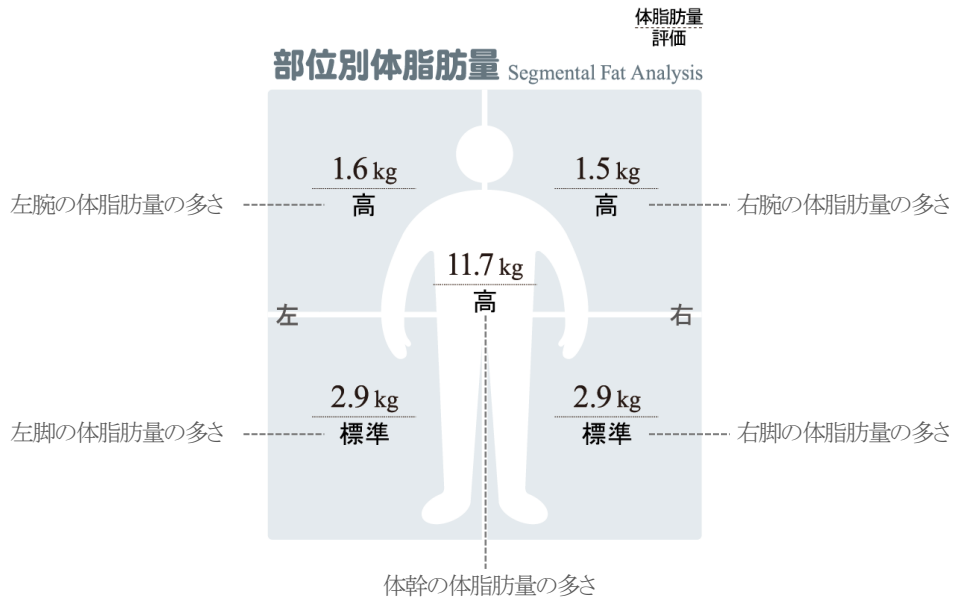
例) 筋肉量が標準値(100%)を越えていますが、現在の体重を支え切れない状態を表しています。(主に肥満体型)



このようにInBodyは、部位別筋肉量を評価する際に現在体重に対して適切かどうかを考慮します。筋肉が多いように見える人と、実際に筋肉が多い人を判別でき、過体重での筋肉量の過大評価及び低体重での筋肉量の過小評価を防止できます。

⑤ 部位別体脂肪量 (Segmental Fat Analysis)

部位別(右腕・左腕・体幹・右脚・左脚)の体脂肪量を確認することができます。



体脂肪量

上の数値は実際の体脂肪量をkgで表示しています。

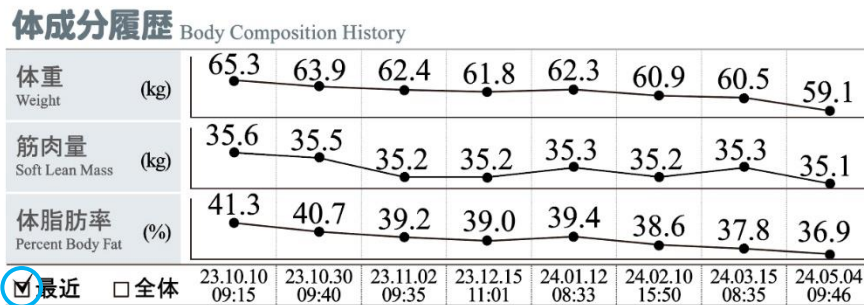
評価

標準体重で持つべき各部位の体脂肪量と比べて評価します。身体のどの部分に体脂肪が多く溜まっているか分かるため、運動・食事療法の参考になります。

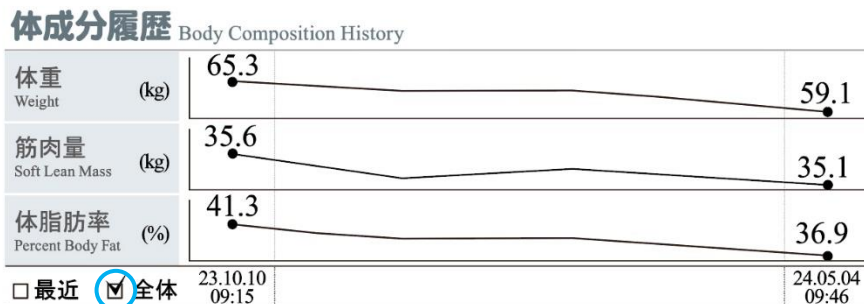
⑥ 体成分履歴 (Body Composition History)

測定 ID の直近データを 8 件まで表示します。体重・筋肉量・体脂肪率を提供します。機器の設定から「全体」を選択すると、全ての測定結果がグラフで表示されます。この場合、測定値は最初と最後の結果のみに表示されます。

最近(直近データを 8 件表示)



全体(最初と最後に測定したデータのみ表示)



InBody点数 InBody Score

68/100点

体成分の総合点数です。
筋肉量がとても多いと100点を超えることもあります。

⑦ InBody 点数 (InBody Score)

一般の方が体成分の測定結果を簡単に理解していただけるように弊社独自に点数化したものです。除脂肪量と体脂肪量の実測値を標準値と比べることで点数を算出します。特に医学的根拠はありません。InBody 点数は 80 点を基準とし、体重調節の筋肉調節量が+1 kg、脂肪調節が±1 kgごとに点数は 1 点下がります。また、筋肉量が標準より 1 kg 多くなるにつれて点数は 1 点ずつ上がります。点数が高い場合は、筋肉が多く体脂肪が標準的な状態で、点数が低い場合は、筋肉と脂肪の均衡が良くない状態を意味します。

* 体内の体水分均衡が崩れている場合、点数は表示されません。

* 70 点以下:虚弱型、肥満型 / 70~80 点:一般型 / 80~90 点:健康型 / 90 点以上:筋肉型

体重調節 Weight Control

適正体重	51.7 kg
体重調節	- 7.4 kg
脂肪調節	- 9.9 kg
筋肉調節	+ 2.5 kg

⑧ 体重調節 (Weight Control)

適正体重は標準 BMI から求める標準体重とは異なる概念です。標準体重は身長に相応しい体重であり、単純に身長を考慮したのですが、適正体重は測定者の体成分を考慮し、筋肉量と体脂肪量が理想的になった状態の体重です。例えば、筋肉量が多くて体重が重い場合、筋肉量をわざと減らす必要はないため、適正体重は標準体重より重くなります。

筋肉均衡 Lean Balance

上半身均衡	<input checked="" type="checkbox"/> 均衡	<input type="checkbox"/> やや不均衡	<input type="checkbox"/> 不均衡
下半身均衡	<input type="checkbox"/> 均衡	<input checked="" type="checkbox"/> やや不均衡	<input type="checkbox"/> 不均衡
上下均衡	<input type="checkbox"/> 均衡	<input checked="" type="checkbox"/> やや不均衡	<input type="checkbox"/> 不均衡

※ 当項目の評価基準は部位別筋肉量をグラフで表示する機種に限って詳細が確認できます。

⑨ 筋肉均衡 (Lean Balance)

上半身均衡・下半身均衡

上半身は両腕の筋肉量の差が 6%以上をやや不均衡、10%以上を不均衡と評価します。

下半身は両脚の筋肉量の差が 3%以上をやや不均衡、5%以上を不均衡と評価します。

上下均衡

両腕と両脚の筋肉量をグラフで表した際にグラフの長さの差が 1 目盛以上はやや不均衡、2 目盛以上は不均衡と評価されます。

栄養評価 Nutrition Evaluation

タンパク質量	<input checked="" type="checkbox"/> 良好	<input type="checkbox"/> 不足	
ミネラル量	<input checked="" type="checkbox"/> 良好	<input type="checkbox"/> 不足	
体脂肪量	<input type="checkbox"/> 良好	<input type="checkbox"/> 不足	<input checked="" type="checkbox"/> 過多

⑩ 栄養評価 (Nutrition Evaluation)

タンパク質量

タンパク質量が標準値の 90%未満の時、不足とチェックされます。低体重でよく見られ、筋肉不足や栄養状態が悪いことを意味します。

ミネラル量

ミネラル量が標準値の 90%未満の時、不足とチェックされます。不足の場合、関節炎・骨折・骨粗鬆症等が現れやすくなります。

体脂肪量

標準体脂肪量の 80%未満なら不足、160%以上なら過多、その間は良好と評価します。

肥満評価 Obesity Evaluation

B M I	<input checked="" type="checkbox"/> 標準	<input type="checkbox"/> 低体重	<input type="checkbox"/> 過体重
			<input type="checkbox"/> ひどい過体重
体脂肪率	<input type="checkbox"/> 標準	<input type="checkbox"/> 軽度肥満	<input checked="" type="checkbox"/> 肥満

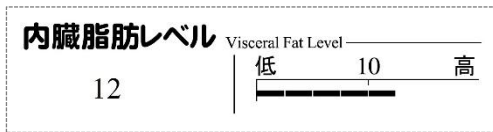
⑪ 肥満評価 (Obesity Evaluation)

BMI

WHO 基準に従って、18.5~24.9 は標準、18.5 未満は低体重、25.0~29.9 は過体重、30.0 以上はひどい過体重と評価します。

体脂肪率

男性の場合、体脂肪率が 20%未満なら標準、20~25%なら軽度肥満、25%以上なら肥満です。女性の場合、体脂肪率が 28%未満なら標準、28~33%なら軽度肥満、33%以上なら肥満です。



研究項目 Research Parameters

骨格筋量	19.6 kg	(19.5~23.9)
除脂肪量	37.3 kg	(35.8~43.7)
基礎代謝量	1176 kcal	
腹囲	91 cm	
除脂肪指数(FFMI)	15.2 kg/m ²	
体脂肪指数(FMI)	8.9 kg/m ²	
骨格筋指数(SMI)	5.8 kg/m ²	
骨格筋率(SMM/WT)	33.2 %	

⑫ ウエストヒップ比 (Waist-Hip Ratio)

臀囲に対する腹囲の比の推定値であり、WHR(Waist-Hip Ratio)と表記されます。

* 環境設定「20. 標準範囲」で、標準範囲を変更することができます。

⑬ 内臓脂肪レベル (VFL; Visceral Fat Level)

内臓の間に存在する内臓脂肪の量を推定したレベルです。内臓脂肪レベルを 10 以下に維持することが健康な状態と言え、10 を超えると注意が必要です。

⑭ 研究項目 (Research Parameters)

骨格筋量 (SMM; Skeletal Muscle Mass)

随意的な運動が可能で筋組織による横紋を持っている筋肉を意味します。四肢の筋肉は骨格筋のみで構成されている反面、体幹の筋肉には内臓筋・心臓筋も混在します。そのため、当項目は全身筋肉量から、推定される内臓筋・心臓筋の筋肉量を除いた値でもあります。

除脂肪量 (Fat Free Mass)

体重から体脂肪を除いた筋肉や骨の総量を表します。同じ体重でも除脂肪量が少ないと筋肉量も比例して少ないため、基礎代謝量が低下して痩せにくいことを意味します。

基礎代謝量 (BMR; Basal Metabolic Rate)

呼吸や心臓の鼓動など生命維持に必要な最小限のエネルギーです。InBody で計測した除脂肪量に基づき、次のカニンガムの公式を利用することで算出します。基礎代謝量は筋肉量と比例するので、筋肉量が増加するほど基礎代謝量も増加します。

$$* \text{基礎代謝量(安静時代謝量)} = 370 + 21.6 \times \text{除脂肪量}$$

腹囲 (WC; Waist Circumference)

へそ周りのウエストサイズです。体幹のインピーダンスを直接測定することで、メジャー測定値との近似値が実現します。男性は 85cm、女性は 90cm が境界値です。

除脂肪指数(FFMI) (Fat Free Mass Index)

除脂肪量を身長(m)の二乗で割った値です。身長が異なる人同士の除脂肪量を客観的に比較するための指数です。

体脂肪指数(FMI) (Fat Mass Index)

体脂肪量を身長(m)の二乗で割った値です。身長が異なる人同士の体脂肪量を客観的に比較するための指数です。

骨格筋指数(SMI) (Skeletal Muscle Mass Index)

骨格筋のみで構成されている四肢の筋肉量を、身長(m)の二乗で割った値であり、SMI と呼ばれることが多いです。筋肉量の減少と関連する疾患であるサルコペニア(筋肉減少症)を早期に評価するために活用される指標です。AWGS 2019 による評価基準は、男性<7.0kg/m²、女性<5.7kg/m²です。

骨格筋率(SMM/WT) (Skeletal Muscle Mass/Weight)

体幹の骨格筋を含む全身の骨格筋量を、体重で割って比率で表した値です。体重に占める骨格筋量を評価するための指標です。

位相角 Whole Body Phase Angle

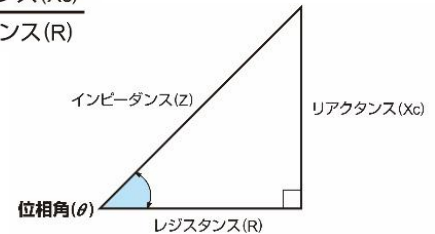
$\phi (^{\circ})$ 50kHz | 4.3 $^{\circ}$

⑮ 位相角 (Whole Body Phase Angle, θ)

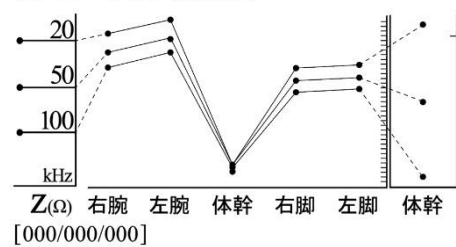
50kHz の交流電流が体水分に沿って流れる際に発生するレジスタンス(R)と、細胞膜を通過する際に発生するリアクタンス(Xc)の位相差を意味します。体細胞量や細胞膜の構造的完成度に比例するので、生命予後や重症度の指標として広く活用されています。一般的に右半身を測定した位相角を全身の位相角(Whole Body Phase Angle)と表記します。

* インピーダンス、レジスタンス、リアクタンスは三角関数の関係を持ちます。

$$\text{位相角}(\theta) = \arctan \frac{\text{リアクタンス}(Xc)}{\text{レジスタンス}(R)}$$



インピーダンス Impedance



⑯ インピーダンス (Impedance)

部位・周波数別のインピーダンス(Z)情報をエラーコードと一緒に表示します。インピーダンスは交流電流が体内に流れる際に発生する抵抗であり、全ての体成分結果の基となります。使用する交流電流の周波数は20kHzの低周波から100kHzの高周波であり、高周波の電流は細胞内も含めた全体の体水分に沿って流れます。その反面、低周波の電流は細胞膜の抵抗により主に細胞外水分に沿って流れるため、インピーダンスは低周波より高周波の電流で小さく計測されます。従って、正常な手順や姿勢で最後まで測定した場合、インピーダンスは必ず測定部と各周波数の特性に合致するパターンが計測されるので、下記を基準にエラーの一次判定ができます。

- ① 20-100kHz の間で 0.1 Ω 以上 **逆転**している箇所がある。
- ② **高値**(体幹 50 Ω 以上、四肢 1000 Ω 以上)を超える箇所がある。
- ③ 値が**急落**(体幹 10 Ω 以上、四肢 100 Ω 以上)した箇所がある。

しかし、インピーダンスグラフ上では上記の条件に対する該当有無を判断することは難しいため、グラフ左下に表示される「エラーコード」を一緒に確認します。インピーダンスが正常に計測された場合、エラーコードは[000/000/000]と表示されます。各 000 は[逆転/高値/急落]を意味しており、前の二桁にはエラーの起きた部位(RA・LA・TR・RL・LL)が、後の一桁にはエラーが起きた周波数帯域の場所(20kHz:1、50kHz:2、100kHz:3、逆転・急落は1~2、高値は1~3)が印字されます。

エラーコードの例

[RA2/000/000] 右腕の 50-100kHz で 0.1 Ω 以上の逆転あり

[000/TR1/000] 体幹の 20kHz で 50 Ω 以上の高値あり

[000/000/LL2] 左脚の 50-100kHz で 100 Ω 以上の急落あり

* InBody270Sは環境設定で結果用紙右側の表示項目を変更できます。下記は標準項目と代替できる項目に対する説明です。

骨格筋指数 Skeletal Muscle Mass Index				
5.8 kg/m ²				
5.8	5.9	5.8	5.9	5.8
20.12.15 11:01	21.01.12 08:33	21.02.10 15:50	21.03.15 08:35	21.05.04 09:46

骨格筋指数 (Skeletal Muscle Mass Index)

IDを入力して測定した場合、直近5回分まで骨格筋指数の履歴を表示します。

研究項目 Research Parameters	
肥満度	115 % (90~110)
推奨エネルギー摂取量	1819 kcal

研究項目 (Research Parameters)

肥満度 (Obesity Degree)

標準体重に対する現在体重の比率です。体成分を考慮せずに肥満を判定するために比較的簡単に使用できますが、実際の肥満を判定するには限界があります。

$$* \text{肥満度} = \text{現在体重} / \text{標準体重} \times 100$$

推奨エネルギー摂取量

健康な方における1日に必要なエネルギー推定量を算出したあと、InBodyで測定した体成分を考慮して補正した値です。体重と骨格筋量が両方とも標準範囲未満である場合は、推奨エネルギー摂取量は増加しますが、体重と体脂肪率が両方とも標準範囲以上である場合、推奨エネルギー摂取量は減少します。

運動別消費エネルギー量			
ゴルフ	104	ゲートボール	112
ウォーキング	118	ヨガ	118
バドミントン	134	卓球	134
テニス	177	自転車	177
ボクシング	177	バスケットボール	177
山登り	193	縄跳び	207
エアロビクス	207	ジョギング	207
サッカー	207	水泳	207
剣道	295	ラケットボール	295
スカッシュ	295	空手	295

* 現在の体重基準
* 30分運動基準

運動別消費エネルギー量

計画表に沿って運動することによって体重の減少量が予想できるため、計画性のない無理な体重調節を避けることができます。

計画表作成方法

- 1) 一週間で実践できる運動を選択して、一週間分の消費量の合計を算出します。
- 2) 次の計算法を利用して一ヶ月後の予想体重減少量を求めます。

$$* \text{一ヶ月後の予想体重減少量} = \text{一週間分の消費エネルギー合計} \times 4 \div 7700$$

血圧 Blood Pressure	
平均血圧: 96mmHg	脈圧: 49mmHg 心筋仕事量: 9075
収縮期: 121mmHg	拡張期: 72mmHg 脈拍: 86

血圧 (Blood Pressure)

平均血圧 / 脈圧 / 心筋仕事量

InBodyに接続された血圧計で測定した平均血圧、脈圧、心筋仕事量(Rate-Pressure Product; RPP)の数値を表します。

* インボディ・ジャパンの指定する血圧計のみ接続できます。

収縮期 / 拡張期 / 脈拍

InBodyに接続された血圧計で測定した収縮期血圧(最高血圧)、拡張期血圧(最低血圧)、脈拍(心拍)の数値を表します。

* インボディ・ジャパンの指定する血圧計のみ接続できます。

QRコード

QR Code

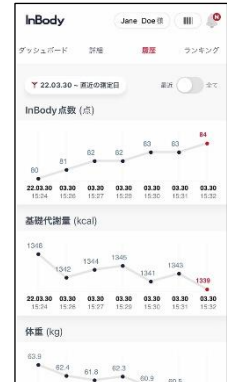


スマートフォンで
測定結果の確認

QRコード (QR Code)

専用アプリ「InBody」を使用して QR コードを読み取ると、スマートフォンで測定結果を確認することができます。

- * QRコードは測定完了後のLCD画面から表示することもできます。
- * タブレット端末ではアプリケーションをダウンロードできません。
- * QRコードは(株)デンソーウェーブの登録商標です。



結果説明 Results Interpretation

体成分分析

人体は体水分、タンパク質、ミネラル、体脂肪の4つの成分で構成されており、これらの合計が体重になります。体成分をバランスよく維持することは、健康の維持に重要なポイントです。

結果説明

結果用紙上に表示される主な測定項目や評価項目に対する簡単な説明を結果用紙の右側に出力することができます。

* InBody270Sは環境設定から結果用紙の種類を変更することができ、目的に見合った項目の出力が可能です。

○ 小児用結果用紙 (A4 用紙)

InBody [InBody270S]

ID Sample	身長 168cm	年齢 15	性別 男性	測定日時 2024.05.04. 10:59
-----------	----------	-------	-------	------------------------

体成分分析 Body Composition Analysis

体を構成している	体水分量 (L)	34.2 (31.4~38.4)
筋肉を作る	タンパク質量 (kg)	9.4 (8.5~10.3)
骨を丈夫にする	ミネラル量 (kg)	3.06 (2.91~3.55)
余ったエネルギーを保存する	体脂肪量 (kg)	12.3 (6.7~13.4)
体水分・タンパク質・ミネラル・体脂肪の合計	体重 (kg)	59.0 (47.5~64.3)

*** -0.5kg

筋肉-脂肪 Soft Lean-Fat Analysis

体重 (kg)	59.0
筋肉量 (kg)	44.1
体脂肪量 (kg)	12.3

肥満指標 Obesity Index Analysis

BMI (kg/m ²)	20.9
体脂肪率 (%)	20.8

成長曲線 Growth Graph

身長: 25~50%

体重: 50~75%

体成分履歴 Body Composition History

身長 (cm)	162.5	163.8	165.7	168.0
体重 (kg)	51.5	55.5	56.2	59.0
筋肉量 (kg)	36.5	40.6	41.2	44.1
体脂肪率 (%)	25.0	22.7	22.5	20.8

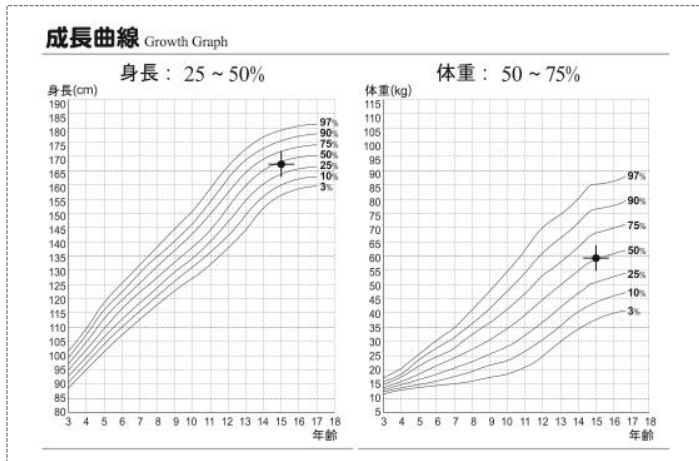
最近 全体

○ サーマル結果用紙 (感熱紙)

InBody Website: www.inbody.co.jp

InBody 2024/05/04 09:46
ID : Jane Doe
身長 : 156.9cm 年齢 : 51
性別 : 女性 体重 : 59.1kg

体水分量	27.5 L
タンパク質量	7.2 kg
ミネラル量	2.63 kg
体重	59.1 L
筋肉量	35.1 kg
体脂肪量	21.8 kg
体脂肪率	36.9%
標準範囲	(18.0~28.0)
BMI	24.0 kg/m ²
標準範囲	(18.5~25.0)
骨格筋量	19.6 kg
骨格筋量は自分の意思で動かせる随意筋を意味します。	
基礎代謝量	1176 kcal
安静時に生命機能を維持するために必要な最小限のエネルギーです。	
腹囲	91 cm
内臓脂肪レベル	12
標準範囲	(1~9)
部位別筋肉量	
左	1.94 kg
右	2.09 kg
標準	17.7 kg
低	5.02 kg
高	5.20 kg
部位別体脂肪量	
左	1.6 kg
右	1.5 kg
標準	11.7 kg
低	2.9 kg
高	2.9 kg
InBody点数	68
脂肪調節	-9.9 kg
筋肉調節	+2.5 kg
位相角	4.3°
インピーダンス	
Z(c)	右腕 左腕 体幹 右脚 左脚 体幹
[000/000/000]	



成長曲線 (Growth Graph)
 小児標準成長曲線は、小児の身長・体重・BMI から選択した2項目を同年齢の小児と比較することで、成長程度が確認できるグラフです。
 * 管理者メニューの環境設定「22.小児成長曲線」の設定によって標準曲線が変わります。
 日本: 日本文部科学省が発表している小児成長曲線です。
 WHO2007: WHO が定めている最新の小児成長曲線です。

memo

memo

memo

